

行政視察等報告書

2020年11月18日

米子市議会議長様

会派名 よなご・未来
 代表者氏名 西川章三
 提出者氏名 土光均



下記のとおり報告します。

記

項目	<input type="checkbox"/> 現地調査 <input type="checkbox"/> 行政視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動 <input checked="" type="checkbox"/> 研修会への参加 <input type="checkbox"/> 会議への参加
参加者	土光均
期日	2020年11月9日(19時30分～21時)
<p>〔概要〕(年月日・場所・内容)</p> <p>2020年11月5日 PARC 自由学校教室において開催された「PARC 自由学校講座」に参加。(コロナ禍のため現地への参加ではなくインターネット環境を使った ZOOM ミーティングへの参加)</p> <p>・テーマ 私たちの暮らしにあふれる使い捨てプラスチック。その生産量は増え続け、膨大な量のプラスチックごみとなって、自然環境への流出・蓄積が進んでいる。とりわけ海洋汚染は、野生生物の生存を脅かし、人体への健康リスクにもつながる地球規模の環境問題としてその深刻化が懸念されている。ところが、プラスチックごみの削減が国際的な共通課題として認識される一方で、新型コロナウイルスの感染拡大は、日本でも海外でも、使い捨てプラスチックごみの増加を招いており、使い捨てマスクの海への大量流出も報じられている。私たちの日々の暮らしと地球環境の危機はどのようにつながっているのか？ 井田徹治さん(共同通信社 編集委員)とパンデミック以後の世界で求められる構造転換について考える。</p> <p>〔所感〕プラスチックごみの「リサイクル」に関して、私たちは誤った認識を持っている。その認識をただすところから始めなければならない。</p> <p>プラスチックは、リサイクルするものではなく、そもそもその発生源に遡り問題点を考える必要がある。</p> <p>ペットボトル、自販機、ビニール傘、コンビニ文化、レジ袋、マイバッグなどそれぞれどう向き合うのか、その中で地方自治体として何ができるのか、何をしていくべきなのか議論が必要。</p>	
経費	参加費・資料代 500円